

沖 正弘

第二次世界大戦中、諜報員として東西医療法と各種教宗派の特別訓練を受け、モンゴル、中国、インド、アラビア各地に赴いた。（訓練は、軍事学、武術の他、諸外国語、細菌学、薬物学、法医学、心理学など多岐に渡った）

戦後、1951年、ユネスコ平和建設国際奉仕団日本代表としてインド、パキスタンに赴き、医療面、福祉事業面で活動。この時、釈迦、ガンディーを悟りに導いた教えがヨガであることを知り、ヨガ哲学へ熱烈な探究心を向け、マハトマ・ガンディーを師とし生活を共にする。

沖青年はガンディー師の生活ぶりを真似ているうちに、ヨガとは自然の法則に従うということだと理解した。絶え間なく変化する中で、常に心を進化させながらバランスを取り続け、安定した生き方をすることが、ヨガであると体得した。

その後の生涯を修行に費やし宗教面ではラマ教・道教・イスラム教・ユダヤ教寺院での修行を体験、また医療面では、現代医学、漢方医学、インド・アラビアの古代医療法も学修し、自由な思想で結合させたヨガを確立する。

沖のヨガは修正行法と瞑想行法で、その理論と実証によって、インドとスイスにより医学と哲学の学位をうけ、修道場には、常時、世界各国からの人々が入門、研修し多くの弟子を持った。

日本では上皇后美智子様、田中角栄氏・中曽根康弘氏（共に元内閣総理大臣）、大原麗子氏（女優）などに多くの著名人にヨガ指導をした。

1985年7月イタリアで没した。

近年のヨガブームで沖の多くの著作が復刻されている。